

# 苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 8 回 定例委員会
日 時	令和2年7月22日 自 15時25分 至 16時26分
場 所	本庁舎5階第2応接室
出 席 委 員	教 育 長 五十嵐 充 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 植 木 忠 夫 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹
欠 席 委 員	
会議録署名委員	佐 藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 田 中 真 奈
事 務 局 職 員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 学 校 教 育 課 教 職 員 係 長 近 藤 大 介 生 涯 学 習 課 長 林 崎 竹 亜 生 涯 学 習 課 主 幹 藤 原 誠 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（五十嵐教育長）・・・15時25分
2	会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3	会議録の承認
	（五十嵐教育長） 第7回定例教育委員会（令和2年6月26日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（五十嵐教育長） 本日は、午後1時から苫小牧東小学校、苫小牧東中学校新築校舎の見学会、午後2時20分から総合教育会議と忙しい日程となっておりますけれども、引き続き、定例の教育委員会の会議を開催させていただきます。
	6月1日に学校が再開されてから8週目に入りました。本来であれば、明日23日から小中学校が夏季休業に入るところでしたが、新型コロナウイルスの影響で、あと2週間ほど1学期の授業が続きます。子供たちには熱中症に気をつけて、8月7日まで学校でしっかりと学習に励み、8日からはいつもと違う少し短い夏休みを健やかに過ごしてもらいたいと思っています。
	7月9日の校長会議では、各校長に対し、コロナ禍における子供たちに対する学びの保障、感染症対策の徹底と心のケアについて、それから教職員へのフォローについて

でも配慮をお願いするとともに、新年度に入ってから6月までの3カ月で、早くも18件という異常なペースで教員の交通事故違反が発生していることから、安全運転の励行について、改めて強く指導するようお願いをしております。

道教委は、7月10日、来春の公立高校の入試の出題範囲を例年より縮小すると発表しました。市教委は同日付で各学校に対し、出題範囲から除外する学習内容について通知するとともに、入試から除外される範囲についても中学校卒業時まで確実に身に付けさせるようお願いをしたところです。

7月11日、民族共生象徴空間「ウポポイ」の開業記念式典に出席するため来道された萩生田文部科学大臣が、式典前の時間を利用して市民会館前の広場に設置されている八王子千人同心の碑を訪問されましたので、岩倉市長とともにご案内させていただきました。短い時間ではありましたが、八王子市出身の大臣は、説明役である美術博物館長の解説を熱心に聞いておられました。

今年は、昨年の小学校の教科用図書採択に引き続き、令和3年度から使用する中学校教科用図書採択の年であります。7月15日に教科書採択調査研究委員会が開かれ、私から調査研究委員会の48名の委員選出に対し感謝の意を伝えたところです。暑さ厳しい中、委員の皆様にも8月17日以降、ハードスケジュールでご苦勞をおかけすることとなりますが、よろしくお願い致します。

第8回市議会臨時会が7月17日に開催され、教育関連では、国の第2次補正に対応する、学習ICT環境整備や学校活動再開支援事業など11億円、市全体では26億円を超える事業規模となる補正予算が審議され、可決されました。これを受け、できるだけ早く、各学校への予算配分やICT環境整備を実施し、ウイルス感染症対策、学びの保障に万全を期してまいりたいと考えています。

最後になりますが、来週、7月30日に、旧明德小学校校舎を活用して設置される道立特別支援学校の説明会が開かれる予定となっています。昨年の保護者アンケートでは、新設校への通学希望は15パーセントにとどまり、半数以上が検討中ということでありました。令和3年4月の開校時に、義務教育段階の児童生徒がより身近な場

所において専門性の高い教育を受ける機会が確保されるよう、まずはこの説明会に多くの保護者に出席していただくことを期待するところです。

報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

### 第1号 令和2年度 教育委員会点検・評価報告書(案)について

(教育部次長) -令和2年度 教育委員会点検・評価報告書(案)について説明-

(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(植木委員) 23ページの「いじめや不登校の未然防止、早期発見・対応と機関連携の強化」について質問をさせていただきます。評価はC評価となっていますが、後ほど回答の後に、意見を述べたいと思いますが、C評価にした理由は不登校児童生徒数が増えたということでC評価にしたのか、それとも別の理由があってC評価としたのか教えていただきたいです。

(教育部参事) 不登校児童生徒数は年々増えています。ただ、それをもってC評価とした理由ではなく、取組を一生懸命やっているがそれが成果に結びついていないというのが理由でC評価としています。

(植木委員) わかりました。ひとつ、意見を述べさせていただきます。C評価にすべきかどうかは、私も非常に難しいなと思いつつ、やむを得ないなという思いもあります。しかし、前和野教育長の時代に、不登校の未然防止・早期対応ということで、組織の再編成を行ったと認識しています。組織の再編成をしてからは、不登校の要因を突き止め、それに対応し、不登校児童生徒数を減らしていく組織に変えたと思

<p>っています。だとするとこれをC評価とするのは、人数が増えたということだけではなく、組織を再編成したにもかかわらず何らかの理由があるのではないかと考えます。</p> <p>先ほど、取組が成果に結びついていないと参事からお話がありましたけれども、組織を再編成してから、まだ1、2年ですので評価理由の記載に付け加えることが必要なのではないかと思えます。そうでなければ、単に不登校児童生徒数が増えたからC評価だとか、減ったからA評価という短絡的な問題ではないのではないかと思えます。</p> <p>そのベースにあるものは、社会背景の変化、児童の貧困率問題等、色んな問題が社会全体にありますので、単に人数が増えたからC評価という評価の仕方は不足ではないかと思えます。教育委員会としては、懸命にやったが人数が増えましたというような記載にした方がよいのではないかと個人的には思えます。C評価といえばC評価ですが、評価理由欄に記載をもう少し詳しく書くべきかと思えますので、ご検討いただければと思います。</p> <p>(教育部参事) 不登校児童生徒数が非常に増えているというのは、苫小牧市の喫緊の課題であると認識しております。植木委員がおっしゃられたように、教育委員会や学校としては懸命に努力しております。ただ、それが成果に結びついていない、さらにはこのコロナの状況によって、また新しい不登校児童生徒数が増える可能性が考えられるということで、非常に教育委員会としては危機感を持っています。今後更に、努力していく必要があり、改善しながら取組も強化していかなければならないという自戒の念も込めてC評価にしたところですが、評価理由については、もう少しわかりやすく努力してきた点を含めながら記載出来たらなと思っています。</p> <p>(植木委員) よくわかりました。ただ、教育委員会も学校現場も頑張っています。昨日、今日の問題ではなく、10年、20年来の問題なので教育委員会としては、努力しているという点を記載しないと、A・B・Cの3段階の評価だけでは、外部評価の委員の方が見たときに、わからないのではないかと思ひ、評価理由に努力している点を記載した方がよいと思ひましたので、意見を述べさせていただきました。</p> <p>(五十嵐教育長) このことについて、評価理由欄に少し記載を加えるということで</p>
--

<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>(齋藤委員) そのことについて、付け加えさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>私も、植木委員と同じ意見を持っておりましたので、発言させていただきます。平成29年から令和元年の不登校児童生徒数の増え方をみると、ショッキングな増え方をしており、さらにC評価となると大丈夫かなと感じる部分がありました。ただ一方で、不登校児童生徒数解消に向けて、教育委員会も学校現場もしっかりと取り組んでいるのを私も存じ上げています。取組の効果が結びついておらず、今後は、教育委員会がこの問題について、メインのテーマとして一生懸命取り組むという姿勢を示すために、C評価としたというのは理解しました。しかし、やはり後で外部評価の方が見た時に、人数の増加の指数だけを見ると、いったい何に取り組んできたのかとってしまうのではないかと思います。苫小牧市全体を見たときに、どれだけの子供たちが学校に対して安心感を持って登校しているか、先生や友達に信頼感を持って登校しているかが実は大切な事なのではないかなと思います。何人増えたかだけではなく、苫小牧市の実情として、どれだけ精神面で学校を安全で楽しい場所、自分が必要とされる場所と思っているのかをわかるようなことも記載しないと、全てがうまくいっていないと捉えられてしまうのではないかと思います。具体的にどのようにすべきかわからないのですが、文面なり数値なり示すものがあつたらいいなと思いました。</p>
<p>(教育部参事) 重ねて激励のお言葉ありがとうございます。学校が、いじめや不登校について解決していく際に、学校の安心や信頼が実際にポイントとなってきますので変わらずに努力しているところを評価指標の中にも盛り込んでいきたいと思っています。全国学力状況調査のアンケートに「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」という項目がありまして、子供たちから見た教師がしっかりと自分のことを認めてくれているという信頼のポイントを評価指標に掲載したいなと考えています。ちなみに、先ほどの項目のパーセンテージは小学校で平成29年度84.5%、平成30年度84.7%、令和元年度83.5%で、これは全国平均より若干1、2%低めですが、それなりのレベルで安定しています。中学校では、平成29年</p>

<p>度85%、平成30年度83%、令和元年度85.4%で、全国平均が約81%ですので、若干、上です。中学校の先生は努力していることが、示せるかと思います。不登校児童生徒数が多いけれども、子供たちは自分たちのために頑張ってくれているということをしっかり認めているというのがわかるので、このあたりも盛り込んだ評価指標にできたらなと思います。</p>
<p>(五十嵐教育長) 今のお話で、B評価に変わることはないですね。あくまでもC評価でよろしいですか。</p>
<p>(教育部参事) そうですね。今後のこともありますのでC評価とします。</p>
<p>(五十嵐教育長) 努力目標という位置づけでC評価とすることよろしいですね。他に何かございませんか。</p>
<p>(佐藤委員) 35ページ、施策①「家庭教育に関する情報発信の充実」についてB評価ということですが、私が少し心配だなと思ったところは、今後の取組内容についてです。来年度の自己点検・評価につながる場所ですので、一つの指針として歩まれていくところだと思いますが、点検内容としてももう少し具体的に説明した方が外部評価の方々により深く理解を得られるのではないかと思います。どのような機能をどうするか等あれば、来年、改めて昨年はどうか今年はどうかを比べた時に、より正確にはっきりと自己点検の評価をいただけるのではないかと思います。もう少し具体的に付け加えていただいた方が、外部評価の方々によくわかるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>(教育部参事) おっしゃるとおりです。コロナ禍の中で、メール配信システムの更なる進化が求められておりました、2学期の8月18日から新システムに変更します。主な変更機能は、メール本文機能以外のファイルを添付できるようになり、市教委からの臨時休業等の通知文書等も添付することができます。また、いままで受信方法は、メールしか選べなかったのですが、LINE等のアプリを追加できるようになります。そのような機能を変更している点を、今後の取組に記載したいと思ひます。</p>

<p>(佐藤委員) 方向性は「改善」ということですが、そのように記載していただければ非常に内容がわかって、外部評価の方々にもわかりやすいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>(五十嵐教育長) その他、いかがでしょうか。</p>
<p>(齋藤委員) 単純な質問ですが、20ページ、No. 13の評価指標「1日2時間以上ゲームをすると回答した割合」について、平成30年度と令和元年度の記載が無いのは、調査をしていなかったのでしょうか。</p>
<p>(教育部参事) 平成30年度と令和元年度については全国学力・学習調査は実施しましたが、調査項目にありませんでしたので、記載がありません。ただ、今年度の質問項目にはありました。今年度については、4月の中旬に全国一斉には行っていませんが、生徒質問紙、学校質問紙調査については、経年比較をしており、9月までに各学校にご協力いただくとのことなので、来年度についてはこの項目に掲載することが可能となります。</p>
<p>(齋藤委員) 令和元年度に、苫小牧市教育委員会がどういう取組をしてきたかという点検評価なので、平成29年度の指標しか無いというのは、見る方は判断しようが無く、どれだけ状況が変わったのかを判断するのが難しいのではないかと思います。令和元年度の活動の中で、数値が上がったのか下がったのかという目安が無いと評価のしようが無いのではないかと思います。何か代替りの項目を載せるご予定はありますか。</p>
<p>(教育部参事) 検討したいと思います。</p>
<p>(五十嵐教育長) 例えば、この項目は令和元年度の数値が無いので、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という項目だけで、B評価とする判断は、少し不足するという考えでしょうか。</p>
<p>(教育部参事) そうですね。</p>
<p>(五十嵐教育長) 別の項目が無いかも含めて、もう少し再検討してもらおうようにします。その他、ございますか。</p>



<p>(齋藤委員) 40ページ、No. 33について一部 No. 26にもつながるところもありますが、学校教育力向上エリア会議について、評価指標に「各中学校区エリアにおける特別支援教育部会の平均開催回数」が記載していますが、各中学校区エリアによって開催回数が少ない、多い等の開きはありますか。どこのエリアも平均4.1回とすることなのでしょうか。回数が多ければ良いというわけではないですが、どのくらいの割合で行っているのか、平均で見るとはすごく難しいな思うのですが、実際どのように開催されたのでしょうか。</p>
<p>(教育部参事) 平均ですので、各エリアで格差がありますが、少ないところで年2回、多いところで年7回となっています。</p>
<p>(齋藤委員) 結構、開きがあるんですね。何回行われたかという回数より、中身の問題なので、回数だけに着目をするよりも各エリアにおいて、たとえ回数が2回であっても中学校、小学校の先生方、幼稚園や児童館の先生方が集まることによって、各エリアにおいて中身があるものだったと思われることが大事だと思うのですが、会議の後に満足度等のアンケートを取るなどされていますか。満足度等を評価指標に記載する方が回数も2回から7回と差がある中で平均4.1回という回数を載せるより、中身の満足度等、やってよかったというのを見せる方が、学校教育力向上エリア会議の意義を示せるのではないかと思います。</p>
<p>(教育部参事) 学校教育力向上エリア会議の振り返りですが、年度末に各エリアの進捗状況調査を行っています。さらには、会議の中でケース交流や先進的なエリアの発表の場を設けたりしています。その辺をわかるような文面にするよう再検討していきたいと思います。</p>
<p>(齋藤委員) わかりました。もう1つ、幼稚園等訪問事業等ですとか幼稚園や学校との情報共有を推進すると明記されていますが、先ほどの総合教育会議でも話がありましたが、やはり校区の問題があつて特に、幼稚園との情報共有をする中で小中連携よりももっと校区の問題が切実になっていると思います。幼稚園というのは、必ずしも自分の校区のエリアにお子さんが通っているわけではないですし、先ほど不登校の</p>

問題の指摘もありましたけれども、不登校の要因に発達障害を背景としているケース
が増加しているとおっしゃっていましたが、今後そのようなことを含めても、就学前
からのケアというのがとても大事になっていて、幼稚園や保育園機関との情報交換の
必要性がとても増してきていると思います。今回の点検評価とは少し話がずれるかも
しませんが、今後の取組の点で特別支援学校が開校し、これから研修会等の充実を
図ると別のページにも記載しており、その点、とても評価できると思いますが、これ
から各園との情報交換の充実のために、どのように今後の取組としてビジョンがある
のか教えていただきたいです。理由として、幼稚園等訪問相談事業を去年10回、今
年8回やりましたというのも、これも回数では無いと思います。おそらく幼稚園側と
しては、支援が必要なお子さんが居た場合、教育委員会と情報をシェアしようという
よりも、おおぞら園とつながろうという意識がとても強く、せつかく幼稚園等訪問相
談事業を行っていても、おおぞら園との違いは何なのかというところが、わかりづら
いのではないかなとすごく感じます。せつかく教育委員会で幼稚園等訪問相談事業を
行い、就学時スムーズになるよう情報を提供すると言っても、幼稚園側との認識のず
れがすごくあると思います。書面でこういうのがありますといただいても、いまいち
わからない、また各エリア会議でもなかなか、そのような話にまでならず、個別の
お子さんの話になってしまいがちだと思います。ですから、教育委員会側から幼稚園
や保育園側に文書だけではなく、例えばこども育成課で行っている連絡協議会等で警
察の方がきて防犯面のお話をしてくれるなど、保育園関係者以外の方が来て色々なお
話をしてくれる場があるので、そのような場に教育委員会が行って、支援のことだけ
ではなくオール9のことだとか、苫小牧市の方針を幼稚園、保育園側におろすだとか、
そういったことが出来るのではないかと個人的な感覚では思います。今後の取組の点
として、今、話したことは難しいことでしょうか。
(教育部参事) まず、幼稚園との連携ですけれども、広い範囲から子供が通うので
小学校は、各エリアではなくて、入学してくる児童の卒園した幼稚園に行つて情報提
供してもらい、適宜、小学校が幼稚園等に行つて連携を図るということで、市教委と

しては各小学校へ呼びかけをしております。そのような動きを更に強化してもらうよう伝えたいと思います。次に、おおぞら園との関わりですが、おおぞら園が今年度より幼稚園等訪問相談事業等を行っています。おおぞら園が、今年度、幼稚園連絡協議会等において違い等を説明する予定とのことですので、違い等をアナウンスしていきたいと思います。

(齋藤委員) わかりました。ありがとうございます。最後にもう一点よろしいでしょうか。41ページのアーティストバンクについてお聞きしたいと思います。成果の文面ですが、「アーティストバンクは、紹介数は前年度を下回った」と記載していますが、評価の文面には「前年度より4件増加し、紹介数も増加傾向」と記載されており、矛盾しているのではないかと思ったのですが、これは意味合いが違うのでしょうか。

(生涯学習課長) アーティストバンクについて、ご質問いただきました矛盾部分については、記載不足がありうまくお伝えできなかったもので修正をさせて頂きたいと思っています。本来の表現は、評価欄の「増加傾向」の前に事業開始当初から比べると増加傾向にあると伝えなかったのですが、その部分が抜けており、矛盾してしまいました。ご意見いただきました通り、アーティストバンクの照会実績についても、評価指標に追加させていただき、文面を整理し修正させていただきたいと思います。

(齋藤委員) 評価指標の中に紹介数も記載していただけるとのことですね。

(生涯学習課長) はい、そうです。

(齋藤委員) わかりました。48ページのアウトリーチ事業の実施件数が令和元年度、36件となっていますがこの数字が、先ほどの紹介数と同じになるのでしょうか。

(生涯学習課長) アウトリーチ事業の実施件数とアーティストバンクの紹介数は、少し違いまして、アウトリーチ事業は苫小牧市で1万円の補助をして実施する事業で、アーティストバンクについては、依頼者の負担によって実施する事業になっていますので、違う数字で出ることになります。

(齋藤委員) わかりました。ありがとうございます。今後の取組の中で、私も色々

<p>調べた際に、アウトリーチ事業の申込み期限が4月末だったと思うのですが、間違いないでしょうか。それ以降は、申し込むことはできないのでしょうか。</p>
<p>(生涯学習課長) おっしゃったとおり、3月から4月までの募集期間となっております。4月の期限を変更する等の時期的な変更は、利用者と協議しながら可能かとは思いますが、募集期間については、アウトリーチ事業に対して、事業費の約1.5倍の応募がありまして、随時募集をしたいのですが、随時受付してしまうと、残り0.5の方々が先着順となってしまう派遣できなくなってしまいますので、現状、随時募集については予算の関係もありできないかなと思います。1.5倍程度の事業費があれば、可能かと思いますがその辺も含めまして、原課の方では工夫して対応していきたいと思えます。</p>
<p>(齋藤委員) わかりました。ありがとうございます。予算の面もあり難しいのかなと思いつつも、私も教育委委員ですので、たくさんの方に利用していただきたいと思う気持ちもある一方で、4月末が締め切りだとその年度に入って何をしようかと決まった段階で、結局、申込みができず需要と供給のバランスが取れないのではと思ったのですが、それだけの応募があるのであれば仕方ないですね。ありがとうございます。以上です。</p>
<p>(五十嵐教育長) 他にありませんでしょうか。</p>
<p>(岡田委員) 45ページの生涯学習関連講座について、評価指標の受講者数が令和元年度、112,414人となっておりますが、苫小牧市の人口が17万人に対してその内の約11万人が受講されたということなのではないでしょうか。それとも、延べ人数で重複している人がいるということなのではないでしょうか。</p>
<p>(生涯学習課長) こちらの数字は、延べ人数となります。</p>
<p>(岡田委員) できれば多く市民の方がたくさん学ぶ環境が整う市であればいいと思うのですが、統計として17万人の内、どのくらいの方が生涯学習の講座を受講されているか統計はあるのでしょうか。</p>
<p>(五十嵐教育長) 実数でということですね。いかがでしょうか。</p>

<p>(生涯学習課長) 生涯学習課単独の事業ではなく、全市的な他課の事業を集計した数字となってしまうので、現状、各部署でも実数としての押さえ方をしていないかと思ひます。生涯学習課としても実数としての数字は持っていないのが現状です。</p>
<p>(五十嵐教育長) まったく不可能なのでしょうか。それぞれの部署で押さええている延べ人数と実人数があると思ひますが、実人数の部分を集計することは不可能ではないのかなと思ひますが、やはり難しいのでしょうか。</p>
<p>(岡田委員) 可能であれば、集計していただきたいです。</p>
<p>(生涯学習課長) 例へば、生涯学習課の事業で実人数を押さえ、同じ人が、男女平等参画課の事業に参加していた場合、この重複を押さえるというのは難しいかなと思ひます。</p>
<p>(五十嵐教育長) 同じ人が複数の口座を受講することがあり、所管課も違ふと難しいとのことですね。</p>
<p>(生涯学習課長) そうですね。厳しいかなと思ひます。すいません。</p>
<p>(五十嵐教育長) 厳しいということですが、岡田委員いかかでしょうか。</p>
<p>(岡田委員) もし17万都市で、11万の受講者がいたとするのならとても文化度の高い良い街だなと思ひまして、実際はどうかのかなと気になったのですが数字は出すことは難しいということて理解しました。</p>
<p>(五十嵐教育長) その他、ございますでしょうか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(五十嵐教育長) 他にないようであれば、ご意見、ご指摘いただいた部分を加筆ですとか、表現を改める等、調整をさせていただきたいと思ひます。その他の部分については、原案どおり決定することてよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>

(五十嵐教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。
第2号 教職員の処分について
(五十嵐教育長) 議案第2号につきましては人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) それでは、議案2号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。
6 報告・協議
報告(1) 令和元年度の指定管理者モニタリング総合評価結果について
(生涯学習課長) -令和元年度の指定管理者モニタリング総合評価結果について説明-
(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(五十嵐教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第2号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。
(五十嵐教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第2号につきましては原案どおり決定しましたことを申し添えます。
7 その他
(五十嵐教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。
(一同「なし」の声)
8 委員会閉会の宣言 (五十嵐教育長)・・・16時26分